

はじめに

平成30年度より新しい幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領、保育所保育指針による幼児教育が始まりました。幼児期の教育は、生涯における人格形成の基礎を培う重要な教育であり、全国どの地域でも、どの施設でも質の高い幼児教育を受けることができるよう、「幼児教育において育みたい資質・能力」や「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」が共通の事項として示されています。幼児期の一人一人の子どもたちの育ちや学びを保障していくために、この共通の事項を基に指導の充実を図っていくことが大切です。

また、「幼児教育において育みたい資質・能力」は、幼児期から小・中・高までの18年間の育ちや学びを見通した「資質・能力」の基礎となるものです。「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を小学校と共有しながら、幼児期の育ちや学びを小学校以降につなげていくことが求められています。

二本松市教育委員会では、これらの国の動きや幼児教育の意義の大きさ・幼児教育と小学校教育の接続の重要性に鑑み、「幼小接続期モデルカリキュラム」を作成することとしました。本モデルカリキュラムを参考に、各園、各小学校が相互理解し連携を図りながら実態に応じた「アプローチカリキュラム」や「スタートカリキュラム」を作成し、活用することで、スムーズに幼児教育の成果が小学校教育に引き継がれ、子どもたちのよりよい成長や学びにつながると考えています。幼児教育や小学校教育そのものの質を向上させていくとともに、接続を充実させることで、子どもたちの成長や学びが大樹のようにしっかりと根を張り、太い幹をつくり、大きな実を付けたものになることを願っています。

結びに、本モデルカリキュラム作成にあたりご尽力をいただいた委員の皆様には厚く御礼を申し上げます。

令和2年2月

二本松市教育委員会教育長 丹野 学